

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	岡山科学技術専門学校
設置者名	学校法人岡山科学技術学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	映像音響学科	夜・通信	1020	160	
	電気通信工学科	夜・通信	2040	160	
	食品生命科学科	夜・通信	260	160	
	建築工学科	夜・通信	1830	160	
	建築工学研究科	夜・通信	900	80	
	測量環境工学科	夜・通信	1170	160	
	二級自動車工学科	夜・通信	2272	160	
	一級自動車工学研究科	夜・通信	2368	160	
	ICTライセンス学科	夜・通信	66	4	
(備考) ※「ICTライセンス学科」は「単位制、他は時間制。					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<a href="https://www.oist.ac.jp/report.html">https://www.oist.ac.jp/report.html</a> (本校HP) にて公開している。
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	岡山科学技術専門学校
設置者名	学校法人岡山科学技術学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>2月 教育課程編成委員会(前年度第2回目)</p> <p>3月 シラバス作成 学科内での検討を経て、全学科共通のフォームでシラバスを作成</p> <p>4月 学科ごとに「学科ガイドブック」としてシラバスも学生に配付</p> <p>6月 学校のホームページ上で公表</p> <p>6月 教育課程編成委員会(当該年度第1回目) 出席者: 校外委員2名、校長、教頭、教務次長、グループ長、教務課長、学科主任、学科教員、事務局長</p> <p>7月 学校関係者評価委員会 出席者: 校外委員(各学科1名、卒業生、学生支援会)、校長、教頭、教務次長、グループ長、学科主任、事務局長</p> <p>9月 学科ヒアリング 当該年度の学科運営状況の確認と次年度の教育課程計画を立案。この際には、教育課程編成委員会、学校関係者両委員会での提案等を参考にする。 出席者: 校長、教頭、教務次長、グループ長、学科主任、事務局長、広報企画課長、進路指導課長</p>	
授業計画書の公表方法	<a href="https://www.oist.ac.jp/report.html">https://www.oist.ac.jp/report.html</a>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p><input type="checkbox"/> 学生の成績評価 学生の成績は、筆記試験、実技試験、提出物、出席率、授業態度を総合して次の評価区分で表し、C以上で当該授業科目を認定することとしている。 S(秀) - A(優) - B(良) - C(可) - D(不可)</p> <p><input type="checkbox"/> 進級・卒業の認定 進級・卒業の認定の要件は学科によって異なる。成績、出席データは情報システムにて計算、作表処理して出力し、進級・卒業要件を満たすかどうかを学科内で確認して判断を下す。</p> <p><input type="checkbox"/> 進級・卒業判定会議 毎年3月初旬に、全学科が判定結果を持ち寄って出席者全員に状況を説明し、最終的に校長が決定を下す。 出席者: 教務系の管理職を含む全教員と事務局長</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p><input type="checkbox"/>成績評価指標</p> <p>上記2の評価区分は、筆記試験、実技試験、提出物、出席率、授業態度を総合して決定する評価点による。この評価区分に下記のようにGPAポイントを設定している。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価点</th> <th>評価区分</th> <th>GPAポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100点～90点</td> <td>S</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>89点～80点</td> <td>A</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>79点～70点</td> <td>B</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>69点～60点</td> <td>C</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>59点以下</td> <td>D</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p><input type="checkbox"/>GPA指標値の算出と成績分布</p> <p>GPA指標値は情報システムで計算・集計する。さらにその結果から、成績の分布状況の把握に供するグラフを作成する。</p>		評価点	評価区分	GPAポイント	100点～90点	S	5	89点～80点	A	4	79点～70点	B	3	69点～60点	C	2	59点以下	D	1
評価点	評価区分	GPAポイント																	
100点～90点	S	5																	
89点～80点	A	4																	
79点～70点	B	3																	
69点～60点	C	2																	
59点以下	D	1																	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p><a href="https://www.oist.ac.jp/report.html">https://www.oist.ac.jp/report.html</a></p> <p><input type="checkbox"/>修学支援・職業実践専門課程／履修科目認定および進級・卒業認定の条件、成績指標算出方法</p>																		
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p><input type="checkbox"/>卒業認定の具体的方針</p> <p>1. 卒業認定要件－卒業のためにはまず下記4つの要件を満たす必要がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 定められた学納金を完納していること。</li> <li>(2) 全科目の平均出席率が、学科ごとに定められた出席率以上であること。</li> <li>(3) 全科目に対する認定科目（C評価以上の科目）の割合（科目認定率）が、学科ごとに定められた率以上であること。</li> <li>(4) 授業態度、生活態度等の素行が良好なこと。</li> </ol> <p>2. 進級・卒業判定会議</p> <p>上記1の要件を満たした者が、さらに進級・卒業判定会議の議を経て、校長に認定されていること。</p> <p><input type="checkbox"/>公表</p> <p>卒業要件を満たすための科目認定に必要な出席率や科目認定率に学科による違いはあるが、扱いは同様であるので、ここでは学科ごとの記載はしない。ホームページ上で公表している。</p>																			
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p><a href="https://www.oist.ac.jp/report.html">https://www.oist.ac.jp/report.html</a></p> <p><input type="checkbox"/>修学支援・職業実践専門課程／履修科目認定および進級・卒業認定の条件、成績指標算出方法</p>																		

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	岡山科学技術専門学校
設置者名	学校法人岡山科学技術学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://www.oist.ac.jp/report.html">https://www.oist.ac.jp/report.html</a> <input type="checkbox"/> 情報提供ガイドラインに基づく情報公開（「財務諸表」を含む）／令和6年7月1日現在／Ⅷ 学校財務（情報提供ガイドラインの項目8）
収支計算書又は損益計算書	
財産目録	
事業報告書	
監事による監査報告（書）	

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

(1)映像音響学科

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	映像音響学科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1920 単位時間／単位	510 単位 時間／単位	840 単位 時間／単位	570 単位 時間／単位	1920 単位時間／単位	
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60人	51人	0人	3人	8人	11人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）様式第2号の3の「1」に記述した手順を経てカリキュラムを決定し、シラバスを作成した後は、シラバスの科目区分欄に示した方法（講義、演習、実習等）に従って授業を行う。年間の授業計画は公表しているシラバスに詳しい。
成績評価の基準・方法
（概要）試験の結果・出席率・提出物・授業態度等を総合的に評価総合して評価点（100点～0点）を決定する。さらに、この評価点を評価区分「S（100～90）－A（89～80）－B（79～70）－C（69～60）－D（59～0）」で表す。評価区分C以上で当該授業科目認定とする。
卒業・進級の認定基準
（概要）卒業・進級の認定は、次の要件の確認と手順を踏んで決定している。 1. 認定要件—まず下記4つの要件を満たす必要がある。 （1）学納金が完納されていること。 （2）全科目の出席率が、内規で定められた出席率を上回ること。 （3）科目認定率が、内規で定められた割合を上回ること。 （4）素行が良好なこと。

<p>2. 進級・卒業判定会議  上記1の要件を満たした者が、さらに進級・卒業判定会議の議を経て、校長に認定されていること。</p> <p>※上記1の(2)と(3)の具体的数値は、ホームページの情報公開のページで公開している</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要) クラス担任制をとり、学資負担者面談や関係機関との連携を行っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
19人 (100%)	0人 (0%)	19人 (100%)	0人 (0%)
<p>(主な就職、業界等)</p> <p>四国航空(株)、(株)ピットレー、公益財団法人岡山文化芸術創造、(株)RSK サービス、(株)映像システムズ、公益財団法人とっとりコンベンションビューロー、(株)四国東通、(有)プレイン、(有)ネクサス、(株)トラストネットワーク、公益財団法人岡山県文化連盟、(株)中電工、(株)クリア、(株)フジワラケミカルエンジニアリング、(株)全日警、(株)姫太郎</p>			
<p>(就職指導内容)</p> <p>県外で働いている卒業生の話や事前に関心などのミスマッチ対策や、エントリーシート及び履歴書添削、面接指導による。</p>			
<p>(主な学修成果(資格・検定等))</p> <p>映像音響処理技術者認定 23人受験、20人合格  舞台機構調整技能士 2級 16人受験、8人合格  第二種 電気工事士 17人受験、11人合格  第一種 電気工事士 2人受験、2人合格  ビジネス著作権 22人受験、18人合格</p>			
<p>(備考) (任意記載事項)</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
42人	5人	11.9%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>進路変更、精神的身体的事由、成績不良</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>きめ細かな個人ガイダンスの実施。学資負担者との情報共有。精神的なことも含め課題のある学生へのケア。</p>		

(2) 電気通信工学科

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	電気通信工学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2160 単位時間/単位	990 単位 時間/単位	90 単位時 間/単位	1080 単位 時間/単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			2160 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		36人	4人	3人	6人	9人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 様式第2号の3の「1」に記述した手順を経てカリキュラムを決定し、シラバスを作成した後は、シラバスの科目区分欄に示した方法(講義、演習、実習等)に従って授業を行う。年間の授業計画は公表しているシラバスに詳しい。
成績評価の基準・方法
(概要) 試験の結果・出席率・提出物・授業態度等を総合的に評価総合して評価点(100点～0点)を決定する。さらに、この評価点を評価区分「S(100～90)－A(89～80)－B(79～70)－C(69～60)－D(59～0)」で表す。評価区分C以上で当該授業科目認定とする。
卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業・進級の認定は、次の要件の確認と手順を踏んで決定している。 1. 認定要件—まず下記4つの要件を満たす必要がある。 (1) 学納金が完納されていること。 (2) 全科目の出席率が、内規で定められた出席率を上回ること。 (3) 科目認定率が、内規で定められた割合を上回ること。 (4) 素行が良好なこと。  2. 進級・卒業判定会議 上記1の要件を満たした者が、さらに進級・卒業判定会議の議を経て、校長に認定されていること。  ※上記1の(2)と(3)の具体的数値は、ホームページの情報公開のページで公開している
学修支援等
(概要) クラス担任制をとり、学資負担者面談や関係機関との連携を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
27人 (100%)	0人 (0%)	26人 (96.3%)	1人 (3.7%)
（主な就職、業界等） （株）徳山電機製作所、中国四国管区警察局、（株）メタルテック、三幸工業（株）、 （株）日明舎、（株）ソルコムマイスター、名興電機（株）、双葉電機（株）、三和電 気土木工事（株）、（株）マイスターエンジニアリング、東海電機（株）、（株）ヒュー マンウェイブ、（株）放電精密加工研究所（株）千田組、旭電業（株）、（株）中電 工、日本電設工業（株）、（株）日建、旭日電気工業（株）、（株）日立ビルシステム エンジニアリング、（株）アステア			
（就職指導内容） 履歴書作成や企業研究、面接指導などを行っている。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 第一種 電気工事士 42人受験、30人合格 第二種 電気工事士 42人受験、42人合格 工事担任者 第一級デジタル通信 42人受験、19人合格 第一級 陸上特殊無線技士 42人受験、22人合格 第一級 陸上無線技術士 6人受験、3人合格 電気主任技術者 3種 3人受験、2人合格 エネルギー管理士 1人受験、1人合格			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
44人	2人	4.5%
（中途退学の主な理由） 進路変更、出席不良		
（中退防止・中退者支援のための取組） きめ細かな個人ガイダンスの実施。学資負担者との情報共有。		

(3) 食品生命科学科

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	食品生命科学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1970 単位時間/単位	1020 単位 時間/単位	150 単位 時間/単位	800 単位 時間/単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			1970 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
50人		12人	0人	3人	2人	5人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 様式第2号の3の「1」に記述した手順を経てカリキュラムを決定し、シラバスを作成した後は、シラバスの科目区分欄に示した方法(講義、演習、実習等)に従って授業を行う。年間の授業計画は公表しているシラバスに詳しい。
成績評価の基準・方法
(概要) 試験の結果・出席率・提出物・授業態度等を総合的に評価総合して評価点(100点～0点)を決定する。さらに、この評価点を評価区分「S(100～90)－A(89～80)－B(79～70)－C(69～60)－D(59～0)」で表す。評価区分C以上で当該授業科目認定とする。
卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業・進級の認定は、次の要件の確認と手順を踏んで決定している。 1. 認定要件—まず下記4つの要件を満たす必要がある。 (1) 学納金が完納されていること。 (2) 全科目の出席率が、内規で定められた出席率を上回ること。 (3) 科目認定率が、内規で定められた割合を上回ること。 (4) 素行が良好なこと。  2. 進級・卒業判定会議 上記1の要件を満たした者が、さらに進級・卒業判定会議の議を経て、校長に認定されていること。  ※上記1の(2)と(3)の具体的数値は、ホームページの情報公開のページで公開している
学修支援等
(概要) クラス担任制をとり、学資負担者面談や関係機関との連携を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
6人 (100%)	2人 (33.3%)	2人 (33.3%)	2人 (33.3%)
（主な就職、業界等） （株）アイメッツ、西日本アチューマット（株）			
（就職指導内容） エントリーシート及び履歴書添削、面接指導などによる。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 中級バイオ技術者認定試験 2人受験、1人合格 環境測定管理士3級 4人受験、1人合格 危険物取扱者乙種4類試験 9人受験、3人合格			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
15人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） きめ細かな個人ガイダンスの実施。学資負担者との情報共有。		

(4) 建築工学科

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	建築工学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1950 単位時間/単位	990 単位 時間/単位	180 単位 時間/単位	780 単位 時間/単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			1950 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		44人	0人	3人	7人	10人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 様式第2号の3の「1」に記述した手順を経てカリキュラムを決定し、シラバスを作成した後は、シラバスの科目区分欄に示した方法(講義、演習、実習等)に従って授業を行う。年間の授業計画は公表しているシラバスに詳しい。
成績評価の基準・方法
(概要) 試験の結果・出席率・提出物・授業態度等を総合的に評価総合して評価点(100点～0点)を決定する。さらに、この評価点を評価区分「S(100～90)－A(89～80)－B(79～70)－C(69～60)－D(59～0)」で表す。評価区分C以上で当該授業科目認定とする。
卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業・進級の認定は、次の要件の確認と手順を踏んで決定している。 1. 認定要件—まず下記4つの要件を満たす必要がある。 (1) 学納金が完納されていること。 (2) 全科目の出席率が、内規で定められた出席率を上回ること。 (3) 科目認定率が、内規で定められた割合を上回ること。 (4) 素行が良好なこと。  2. 進級・卒業判定会議 上記1の要件を満たした者が、さらに進級・卒業判定会議の議を経て、校長に認定されていること。  ※上記1の(2)と(3)の具体的数値は、ホームページの情報公開のページで公開している
学修支援等
(概要) クラス担任制をとり、学資負担者面談や関係機関との連携を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
25人 (100%)	6人 (24.0%)	16人 (64.0%)	3人 (12.0%)
（主な就職、業界等） (株)重藤組、(株)和田組、中央建設(株)、(株)合田工務店、吉元建設(株)、中国建設工業(株)、三宅建設(株)、北浜建設(株)、多度津造船(株)			
（就職指導内容） 履歴書や文章作成指導、企業研究、面接指導など。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 二級建築士 3人受験、1人合格 2級 建築施工管理技士 23人受験、13人合格 建築積算士補 34人受験、26人合格 福祉住環境コーディネーター 3級 25人受験、5人合格			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
61人	2人	3.3%
（中途退学の主な理由） 進路変更、精神的身体的事由		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学科のさらなる魅力づくり、きめ細かな個人ガイダンスの実施。学資負担者との情報共有。		

(5) 建築工学研究科

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	建築工学研究科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	930 単位時間/単位	630 単位 時間/単位	単位時間 /単位	300 単位 時間/単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			930 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
25人		15人	0人	3人	2人	5人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 様式第2号の3の「1」に記述した手順を経てカリキュラムを決定し、シラバスを作成した後は、シラバスの科目区分欄に示した方法(講義、演習、実習等)に従って授業を行う。年間の授業計画は公表しているシラバスに詳しい。
成績評価の基準・方法
(概要) 試験の結果・出席率・提出物・授業態度等を総合的に評価総合して評価点(100点～0点)を決定する。さらに、この評価点を評価区分「S(100～90)－A(89～80)－B(79～70)－C(69～60)－D(59～0)」で表す。評価区分C以上で当該授業科目認定とする。
卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業・進級の認定は、次の要件の確認と手順を踏んで決定している。 1. 認定要件—まず下記4つの要件を満たす必要がある。 (1) 学納金が完納されていること。 (2) 全科目の出席率が、内規で定められた出席率を上回ること。 (3) 科目認定率が、内規で定められた割合を上回ること。 (4) 素行が良好なこと。  2. 進級・卒業判定会議 上記1の要件を満たした者が、さらに進級・卒業判定会議の議を経て、校長に認定されていること。  ※上記1の(2)と(3)の具体的数値は、ホームページの情報公開のページで公開している
学修支援等
(概要) クラス担任制をとり、学資負担者面談や関係機関との連携を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
4人 (100%)	0人 (0%)	4人 (100%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） （株）アカンプリッシュ、山陽地所（株）カンパニーハウジング山忠、（株）実建設、セキスイハイム山陽（株）			
（就職指導内容） 履歴書の書き方や面接、業界研究の指導などを実施。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 二級建築士 5人受験、2人合格			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
5人	1人	20.0%
（中途退学の主な理由） 進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） きめ細かな個人ガイダンスの実施。		

(6) 測量環境工学科

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	測量環境工学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1950 単位時間/単位	1455 単位 時間/単位	単位時間 /単位	495 単位 時間/単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			1950 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
50人		21人	0人	3人	2人	5人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 様式第2号の3の「1」に記述した手順を経てカリキュラムを決定し、シラバスを作成した後は、シラバスの科目区分欄に示した方法(講義、演習、実習等)に従って授業を行う。年間の授業計画は公表しているシラバスに詳しい。
成績評価の基準・方法
(概要) 試験の結果・出席率・提出物・授業態度等を総合的に評価総合して評価点(100点～0点)を決定する。さらに、この評価点を評価区分「S(100～90)－A(89～80)－B(79～70)－C(69～60)－D(59～0)」で表す。評価区分C以上で当該授業科目認定とする。
卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業・進級の認定は、次の要件の確認と手順を踏んで決定している。 1. 認定要件—まず下記4つの要件を満たす必要がある。 (1) 学納金が完納されていること。 (2) 全科目の出席率が、内規で定められた出席率を上回ること。 (3) 科目認定率が、内規で定められた割合を上回ること。 (4) 素行が良好なこと。  2. 進級・卒業判定会議 上記1の要件を満たした者が、さらに進級・卒業判定会議の議を経て、校長に認定されていること。  ※上記1の(2)と(3)の具体的数値は、ホームページの情報公開のページで公開している
学修支援等
(概要) クラス担任制をとり、学資負担者面談や関係機関との連携を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
17人 (100%)	0人 (0%)	17人 (100%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） 株式会社荒谷建設コンサルタント、株式会社エフ・ケー・シー、写測エンジニアリング株式会社、松江土建株式会社、中村建設株式会社、株式会社岩崎建設、かわた合同法律事務所			
（就職指導内容） 土木業界の職種の違いについて丁寧に説明。面接練習なども行っている。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 測量士補 養成施設のため卒業生全11人が取得 2級 土木施工管理技士 3人受験、1人合格			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
23人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） きめ細かな個人ガイダンスの実施。学資負担者との連携。		

(7) 二級自動車工学科

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	二級自動車工学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2368 単位時間/単位	928 単位 時間/単位	単位時間 /単位	1440 単位 時間/単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			2368 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
100人		61人	18人	4人	1人	5人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 様式第2号の3の「1」に記述した手順を経てカリキュラムを決定し、シラバスを作成した後は、シラバスの科目区分欄に示した方法(講義、演習、実習等)に従って授業を行う。年間の授業計画は公表しているシラバスに詳しい。
成績評価の基準・方法
(概要) 試験の結果・出席率・提出物・授業態度等を総合的に評価総合して評価点(100点～0点)を決定する。さらに、この評価点を評価区分「S(100～90)－A(89～80)－B(79～70)－C(69～60)－D(59～0)」で表す。評価区分C以上で当該授業科目認定とする。
卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業・進級の認定は、次の要件の確認と手順を踏んで決定している。 1. 認定要件—まず下記4つの要件を満たす必要がある。 (1) 学納金が完納されていること。 (2) 全科目の出席率が、内規で定められた出席率を上回ること。 (3) 科目認定率が、内規で定められた割合を上回ること。 (4) 素行が良好なこと。  2. 進級・卒業判定会議 上記1の要件を満たした者が、さらに進級・卒業判定会議の議を経て、校長に認定されていること。  ※上記1の(2)と(3)の具体的数値は、ホームページの情報公開のページで公開している
学修支援等
(概要) クラス担任制をとり、学資負担者面談や関係機関との連携を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
27人 (100%)	3人 (11.1%)	22人 (81.5%)	2人 (7.4%)
（主な就職、業界等） ネットヨタ山陽（株）、岡山トヨペット（株）、岡山トヨタ車体（株）西日本三菱自動車販売（株）、（株）ホンダ四輪販売岡山、東中国スズキ自動車（株）、岡山日野自動車（株）、広島日野自動車（株）、滋賀日野自動車（株）、大阪日野自動車（株）、スズキ岡山販売（株）、ヤマトオートワークス（株）、マルケー自動車（株）、UDトラックス（株）			
（就職指導内容） 面接や履歴書の書き方などを指導している。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 2級 ガソリン自動車整備士 27人受験、24人合格 2級 ジーゼル自動車整備士 27人受験、26人合格			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
44人	1人	2.2%
（中途退学の主な理由） 進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） きめ細かな個人ガイダンスの実施。学資負担者との情報共有。		

## (8) 一級自動車工学研究科

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	一級自動車工学研究科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2304 単位時間/単位	458 単位 時間/単位	単位時間 /単位	1846 単位 時間/単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			2304 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
30人		4人	0人	1人	2人	3人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 様式第2号の3の「1」に記述した手順を経てカリキュラムを決定し、シラバスを作成した後は、シラバスの科目区分欄に示した方法(講義、演習、実習等)に従って授業を行う。年間の授業計画は公表しているシラバスに詳しい。
成績評価の基準・方法
(概要) 試験の結果・出席率・提出物・授業態度等を総合的に評価総合して評価点(100点～0点)を決定する。さらに、この評価点を評価区分「S(100～90)－A(89～80)－B(79～70)－C(69～60)－D(59～0)」で表す。評価区分C以上で当該授業科目認定とする。
卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業・進級の認定は、次の要件の確認と手順を踏んで決定している。 1. 認定要件—まず下記4つの要件を満たす必要がある。 (1) 学納金が完納されていること。 (2) 全科目の出席率が、内規で定められた出席率を上回ること。 (3) 科目認定率が、内規で定められた割合を上回ること。 (4) 素行が良好なこと。  2. 進級・卒業判定会議 上記1の要件を満たした者が、さらに進級・卒業判定会議の議を経て、校長に認定されていること。  ※上記1の(2)と(3)の具体的数値は、ホームページの情報公開のページで公開している
学修支援等
(概要) クラス担任制を採用し、学資負担者面談や関係機関との連携を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
1人 (100%)	0人 (0%)	1人 (100%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） 三備ホンダ販売株式会社			
（就職指導内容） ビジネスマナーの指導、面接練習等。			
（主な学修成果（資格・検定等））			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
2人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） きめ細かな個人ガイダンスの実施。学資負担者との情報共有。		

## (9) ICTライセンス学科

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	ICTライセンス学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	66 単位時間/単位	43 単位時 間/単位	単位時間 /単位	23 単位時 間/単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			66 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		12人	0人	1人	1人	2人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 様式第2号の3の「1」に記述した手順を経てカリキュラムを決定し、シラバスを作成した後は、シラバスの科目区分欄に示した方法(講義、演習、実習等)に従って授業を行う。年間の授業計画は公表しているシラバスに詳しい。
成績評価の基準・方法
(概要) 試験の結果・出席率・提出物・授業態度等を総合的に評価総合して評価点(100点～0点)を決定する。さらに、この評価点を評価区分「S(100～90)－A(89～80)－B(79～70)－C(69～60)－D(59～0)」で表す。評価区分C以上で当該授業科目認定とする。
卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業・進級の認定は、次の要件の確認と手順を踏んで決定している。 1. 認定要件—まず下記4つの要件を満たす必要がある。 (1) 学納金が完納されていること。 (2) 全科目の出席率が、内規で定められた出席率を上回ること。 (3) 科目認定率が、内規で定められた割合を上回ること。 (4) 素行が良好なこと。  2. 進級・卒業判定会議 上記1の要件を満たした者が、さらに進級・卒業判定会議の議を経て、校長に認定されていること。  ※上記1の(2)と(3)の具体的数値は、ホームページの情報公開のページで公開している
学修支援等
(概要) クラス担任制をとり、学資負担者面談や関係機関との連携を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
5人 (100%)	0人 (0%)	2人 (40%)	3人 (60%)
（主な就職、業界等） アデコ株式会社、株式会社ハローズ			
（就職指導内容） ビジネスマナー、面接練習などを行っている。			
（主な学修成果（資格・検定等））			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
9人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） きめ細かな個人ガイダンスの実施。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考(任意記載事項)
映像音響学科	220,000円	900,000円	180,000円	教科書代等別途
電気通信工学科	220,000円	900,000円	180,000円	教科書代等別途
食品生命科学科	220,000円	900,000円	180,000円	教科書代等別途
建築工学科	220,000円	900,000円	180,000円	教科書代等別途
建築工学研究科	220,000円	740,000円	180,000円	教科書代等別途
測量環境工学科	220,000円	900,000円	180,000円	教科書代等別途
二級自動車工学科	220,000円	900,000円	180,000円	教科書代等別途
一級自動車工学研究科	220,000円	900,000円	180,000円	教科書代等別途
ICTライセンス学科	50,000円	330,000円	100,000円	教科書代等別途
国際情報学科	220,000円	560,000円	180,000円	教科書代等別途
国際機械工学科	220,000円	560,000円	180,000円	教科書代等別途
国際自動車工学科	220,000円	560,000円	180,000円	教科書代等別途
進学準備学科	220,000円	500,000円	120,000円	教科書代等別途
日本語学科	100,000円	500,000円	120,000円	教科書代等別途
修学支援(任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://www.oist.ac.jp/report.html">https://www.oist.ac.jp/report.html</a> <input type="checkbox"/> 自己評価/令和5年度自己評価			
学校関係者評価の基本方針(実施方法・体制) 校内委員と校外委員とで構成する委員の出席により、年1回開催する。校外委員は、設置学科と関連した業種の企業関係者とPTA、卒業生で構成する。 文部科学省の「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づいて全教職員に実施した自己評価に加え、学校長が作成した自己点検・自己評価資料をもとに、上記委員で構成する委員会にて総合的に評価する。 結果は、学校関係者評価報告書にまとめて全教職員に配付するとともに、ホームページ上に公表する。各部署では評価結果を検討し、その後の改善に努める。			
〔評価項目〕 教育理念、学校経営、教育活動、学修成果、学生支援、教育環境、学生の受入れ募集、財務、法令等の遵守、社会貢献・地域貢献			
学校関係者評価の委員			
所属		任期	種別
会社代表者または役員	10名	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	企業関係者
学生支援会代表	1名	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	PTA

同窓会代表	1名	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	卒業生
学校関係者評価結果の公表方法			
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)			
<a href="https://www.oist.ac.jp/report.html">https://www.oist.ac.jp/report.html</a> <input type="checkbox"/> 学校関係者評価／令和4年度学校関係者評価報告			
第三者による学校評価 (任意記載事項)			

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)
<a href="https://www.oist.ac.jp/">https://www.oist.ac.jp/</a>